

人を辞めた俺がダン  
ジョンに潜るのは間違  
いなのだろうか??

絶望から這い上がる

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

愛する人を理不尽に奪われ人で有ることを辞めた主人公の九重鬼鱗が自らを殺し。自身の秘密を知って新たな世界で幸せを掴めるか。

自己満足の為に書いている物です。自分でも自慢出来る程の駄作ですが、それでも面白いと思ったかたは読んでいただけると光栄です。

# 目次

プログラグ

2	1
9	1



## プロローグ

## 1

## 三人称視点

血にまみれた死屍累々の山の上で一人の少年が黄昏れていた。

血液の水溜まり辺りには鉄とオイルの匂いがしていた。

??? 「俺の力は、こんなことに使う為の物だったのかよ。」

少年は強かった。

たとえ自分以外の全てが敵となってもしまっても滅ぼす程の力を持っていた。

??? 「こんな■■■■のいない世界に生きる意味何て有るのだろうか？」

そう少年は死ぬはずだった。

まだ少年が自らの■■に目覚める前に。

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

## 主人公視点

6年前

??? 「た… 食べ… 物…」

とある森の中で一人の少年がさまよい歩いていた。

少年がこんな所にいる理由は、数ヶ月前 I S（インフィニット・ストラトス）が発表されたからだ。この世界では I S に乗れない男の価値が限りなくゼロまで落ち込んだからだ。

つまり少年は実の親にこの森に棄てられたのだ。

そんな時だ

??? 「君はどうしてこんな所にいる？」

美しい女性が、そして少年の未来を変える切っ掛けになる女性がいた。

??? 「すまない、私の名前は九重八坂（ここのえ やさか）だ。

君の名前はなんて言んだ？」

どうやらこの女性の名前を知りたい要だが今の少年に名のつて良い名前などない。

だから少年はこう答えた。

??? 「すいません、二日前に親に棄てられたので名前がありません。」

憶えてはいるがあの親と二度とかかわりたくないのであえて名前を名乗らなかった。

八坂「そうか、

では君の名前は今から九重鬼鱗（ここのえ きりん）だ。今日から私が君の…いや  
鬼鱗の母親になろう。」

そして少年は八坂鬼鱗という新しい名前を名付けて貰った。

鬼鱗視点

それからの生活はとても素晴らしいものだった。

鬼鱗にとって八坂は母親であり初恋の相手でもあった、だが今のこの幸せな時間が壊れてしまうならその思いを隠して親子として2人で生活していた。

だがそんな幸せな時間は長くは続かなかった

――――

それは鬼鱗という名前を貰ってからたったの

4年後のある夏の雨の日だった。

その日もいつも通りに起きて2人で朝食を取り八坂に勉強を教えて貰っていた。そんな時、突然インターホンがなったのだが今日に来客などは無かったはずだ。だからだろう八坂は俺に奥の部屋に行くように言った。

暫くして知らない女の耳障りな囁い声が聞こえて俺は見てしまった。



鬼鱗「嘘だろ…

おい！起きてくれよ一緒に居てくれるって言ってただろ！！

俺を1人にしないでくれよ！

動かないのも何時もの悪戯なんだよなまた笑ってくれるんだよな！

なんとか言ってくれよ！！」

血溜まりに倒れている冷たくなった八坂の姿と2人の嗤っている女の姿だった。

誰が見ても分かるほど八坂の傷は酷かっただが鬼鱗は認めることが出来なかった、現実を受け入れることが出来なかった。

次の瞬間何が壊れるような音が聞こえた。

鬼鱗「お前らか……………」

お前らが八坂を母さんを殺したのか？」

???「その女が私達に逆らったのだから死んで当然でしょ、アンタも男だから殺すけど。」

鬼鱗「殺す、確実に殺す、だがただじゃ殺さない苦しめて酷たらしく醜く辱めて狂わせて発狂させて壊して壊して壊して死を懇願するまでプライドをグチャグチャにしてから俺の監視下の中で過激派の男共の所に連行して■■■■して苦しめられた人達にボロボロにされるようにして人として最上の絶望を味合わせてから水だけ与えて餓死させてやるよ。」

あはははは！ 苦しめ。 あはははは!!」

それは俺の八坂と出会ってから消えたと思っていた鬼鱗の中にあつた闇だった。

??? 「なっ 何よ私達の用な選ばれた人間なのよ!!」

ああ此奴らが選ばれた人間なら俺は人間であることを辞めてやるよ！

鬼鱗「八坂…御免な……貴様らが人間だと言うのなら俺は人間を辞めて修羅となろう。」

—————

その出来事の後すぐだった。

俺は全国に指名手配された、なんせＩＳ委員会に真っ向から喧嘩を吹っつけたのだから

ら。

冒頭に戻る

――――――――――

鬼鱗視点

鬼鱗「こんな八坂のいない世界に生きる意味何て有るのだろうか？」  
俺はIS委員会を1人で壊滅させたその時ふと思ったのが。

☒八坂に会いたい☒

鬼鱗はその時最後の殺害を決意した。

それは

鬼鱗「俺の最後にやるべき事は……………」

人を辞めた俺を殺す事だ。」

その言葉の後鬼鱗は星を燃やしつくす炎で自分の体を消滅させた。

## 2

## 三人称視点

真っ白な空間に少年が倒れていた。

鬼鱗「ここはどこだ？」

俺は戦場で死んだはずだが？」

??? 視点「はい、貴方は死んでしまいました。

ここは言うなれば、（転生の間）という場所です。

貴方には転生して貰いました。」

## 鬼鱗視点

鬼鱗「ました……って事は、俺は一度死んで転生した転生者だったのか？」

??? 「はい、貴方はすでに死んでしまって（IS）インフィニット・ストラトスの世界に転生していただきました。

ですが私ではない一柱の神により貴方が生きるはずだった人生が他の転生者に奪われてしまったのです。

そのため貴方にもう一度別の世界に転生していただきたいと思いここに来ていただきました。」

このよく分からない女性の話だと俺は転生者で他の神が転生させたやつに人生をグチャグチャにされたってことらしい。

そして、それを償うためにもう一度転生してもらいたいということらしい。

???「申し訳ありません、私の名前を忘れてしまっているのでしたね。

少々お待ちください、貴方の記憶を修復させていただきます。」

その言葉の後俺はインフィニット・ストラトスの世界に転生する時と転生する前の記憶を思い出した、普通なら信じられないが戻って来た時に懐かしさを感じたから俺はこの記憶が俺の記憶だと分かった、そしてこの目の前にいる女性いや女神の名前も思い出した。

鬼鱗「ああ……思い出した!!

せっかく転生してもらったのに大人にならずに死んだんだ俺は。

済まないな(天照大神)。」

天照大神「良いんです貴方が死んでしまったのも私達神のせいで貴方は何も悪くない

のです。」

天照大神はそう言うが天照大神に転生前に言われた幸せに生きてくださいという願いを踏みにじったような物だ。

天照大神「貴方の不幸はこちらの不手際なのですなので貴方が申し訳なく思う事はありません。

ですから貴方は幸せになるために転生してほしいのです。

そのためには転生するに当たって転生特典を決めてもらう必要があります、今回の転生は異例ですが私達神のせいなので転生特典は前回の特典＋3個まで可能です。」

――――

そう俺の記憶によると前回の特典は

- ・ 問題者達が異世界から来るそうですよから（アジィダハーカ）のギフト
- ・ 問題者達が異世界から来るそうですよから（逆廻 十六夜）のギフト
- ・ Fateシリーズから全サーバントのクラスカード

だったのだが不都合で八坂が死ぬまで特典が使えない状態でしかも使えたのは（逆廻十六夜）のギフトだけだった。

鬼鱗「なら……俺が望む力……いや俺が求める物は、

1 つ目は八坂の魂に幸福を頼む。

2 つ目は俺にぴったりなとあるシリーズみたいな超能力。

3 つ目は俺の今までを忘れない為に俺の人生で異常と過負荷を作ってくれ。」  
天照大神「わかりました、そしてこれは私から貴方に償いです。

チュ  
♥

私のファーストキスです貴方には幸せになってほしいのです。  
ですから転生した後の世界で幸せいっぱい生きてください。」  
その言葉と共に俺は意識を失った。



## 天照大神視点

天照大神 「貴方が苦しまなくても良いように私は願います。」